

令和2年度第1回さいたま市青少年宇宙科学館運営委員会 会議録

1 開催日時

令和2年8月28日（金） 15時00分から16時30分

2 開催場所

青少年宇宙科学館 2階 団体抛室

3 出席者

【委員：9名】

- ① 中島 雅子 委員長
- ② 大向 隆三 委員
- ③ 溝口 景子 委員
- ④ 浅倉 眞佐子 委員
- ⑤ 平川 和明 委員
- ⑥ 木村 良治 委員
- ⑦ 長嶋 美知子 委員
- ⑧ 豊田 由香 委員
- ⑨ 富田 英雄 委員

【事務局：4名】

- ① 竹居 秀子（生涯学習部長）
- ② 引間 陽子（参事兼青少年宇宙科学館長）
- ③ 佐藤 義将（青少年宇宙科学館事業係長）
- ④ 末吉 康崇（青少年宇宙科学館管理係長）

4 欠席者

上原 一孝 委員

5 議題

- (1) 令和2年度事業計画について
- (2) 令和2年度事業の進捗状況について

6 審議内容

- ・ 議題（1）令和2年度事業計画について、事務局より配布資料（PowerPoint 資

料1～9)に基づき説明した。

浅倉委員	今日、科学館に入ってきたら、たくさんの方がおり、その中には年齢の高い方もいた。このような方に対して、コロナも含めてどのような対応をしているのか。
引間館長	展示スペースに休憩できる椅子を置いたり、暑い中来館されるといことで、また空気を循環させるために扇風機を設置したりしている。皆様が利用しやすい環境づくりに努めている。
浅倉委員	来館されている方が、ゆったりしているように見えた。また、以前より入りやすいようにも感じた。
木村委員	夏休みが2週間しかなかった中、入館者数はどうだったか。
引間館長	再開直後の6月こそ自粛ムードがあったが、7月の4連休や夏休み期間においては、予想以上の来館者があった。 プラネタリウムは現在定員250名のところ半分の125名に制限しているが、満席の時もあった。座席の間隔を空けている中、投影を楽しんで帰っていただいている。 また、展示についても、3密防止の対応の中、たくさんの方の来館者をお願いした。ただ、例年に比べると、平日は少ない傾向はある。
大向委員	展示スペースにおいて、3密を回避するため、どのような対策をとったのか。 また、動画コンテンツの更新については、既にあるものの順番を替えて行ったのか、新しいものを作ったのか、伺いたい。
引間館長	まず、1点目ですが、エリア毎のローテーション方式を取り入れた。具体的には、1グループ6名までとし、1度に入れるグループ数を7グループまでとした。また、5分経過すると、館内に音楽が流れ、次のエリアに移動するよう促す放送を流した。 ただ、思いのほか、3密にはならず、来館された皆様がお互いの距離を取りながら、上手に見学をされていた。 このような状況が確認できたため、フェーズ2に向けて、エリアを廃止したが、今のところ問題なく運営できている。
佐藤係長	2点目の動画コンテンツについてですが、現在新しいものを作成中であり、随時、新しいコンテンツを科学館のホームページにアップしていく予定である。
大向委員	それはオリジナルか。
佐藤係長	オリジナルである。

- ・ 議題（２）令和２年度事業の進捗状況について、事務局より配布資料（PowerPoint 資料 10～32）に基づき説明した。

豊田委員	小学校４年生の学習投影が延期ということであったが、今後の予定が分かったら教えてほしい。
引間館長	来年度に実施予定である。会場については、科学館だけではなく、宇宙劇場も考えている。
豊田委員	新４年生と５年生が対象となるのか。
引間館長	コロナの影響によっては、予想できない部分もあるが、そのように計画している。
平川委員	入館者が伸びない中、今年度の館の運営は厳しいと感じるが、いかがか。
引間館長	厳しい面もあるが、消極的にならずに、感染予防を行いながら、来館者を増やせるよう努めている。
竹居部長	生涯学習部においては、およそ１００館の施設がある。公民館や図書館は、平常時の７割ほど戻ってきている。夏休みに多くの子どもたちが科学館に来館したが、コロナ渦において遠くに行けず、近場の科学館で楽しみたいということがあったと思われる。 また、博物館については、これまで６５歳以上の方の来館が多かったが、現在はあまり来館されず、年配の方々は自粛されているように思う。 先ほど館長からも話があったが、「できない」ではなく、「何ができるか」を考えているので、何かアイディアがありましたら、ご発言をお願いしたい。
大向委員	１１月の３連休に行われる講演会やワークショップは大きなイベントだと思うが、広報について、現在の取組と今後の予定についてお聞きしたい。 また、講演会であるが、最近では YouTube 等において、リアルタイムで見ることができ、場合によっては、家からアクセスして、講師に質問ができたりするようである。どのような形態で講演会を考えているのか、あわせて伺いたい。
佐藤係長	広報については、現在、チラシを学校に配布しているが、アンケートからもチラシが非常に効果的であると認識しているため、本イベントにおいてもチラシ配布を考えている。また、科学館ホームページへの掲載、さらに Twitter についても最近フォロワー数が増えているので、活用したいと考えている。

佐藤係長	講演会の形態であるが、ハード面、ネットワーク面、見る側の準備なども含め、研究していきたい。
大向委員	小中高だけでなく、大学や民間の製造会社なども、科学や技術に興味を持っていることもあるので、検討願いたい。
富田委員	フォーラムについては、講演会、サイエンス・フェスティバルの他に、何か実施するのか。
佐藤係長	企画展を実施する予定である。企業に関わっていただき、最新の宇宙映像やその解説に関する展示をしたいと考えている
富田委員	大きなイベントなので、広報について、理科教育推進協議会や校長会を活用してはどうか。 また、11月のサイエンス・フェスティバルについて、中学校の科学部の顧問は知っているか。
佐藤係長	コロナ渦ということで、中学校のワークショップは実施できないと考えている。今のところ、市立浦和高校、大宮北高校のほか、宇宙少年団YAC、ものづくり大学への参加依頼を予定している。
竹居部長	初めて参加されている委員の方もいるため、少し話をさせていただくが、昨年11月に教育長が「宇宙のまち さいたま」宣言をした。さいたま市にはロケットを打ち上げる施設はないが、若田宇宙飛行士を輩出しているので、教育で「宇宙のまち さいたま」を推進していくというものである。 また、「宇宙のまち さいたま」を宣言した際に作成したものが、「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクトであり、これまで科学館が実施してきた事業を、STEAM教育でカテゴライズして、整理統合したものである。科学に関して入門期の子どもから、興味・関心が深い高校生や大学生まで、段階的に授業を楽しめるものとなっている。 そして、今年度初めて実施するのが、「宇宙のまち さいたま」フォーラムである。このフォーラムのイメージは、科学館が科学と宇宙に関するお祭りを市民の方々と一緒にやっという参画型のイベントである。コロナ渦のため、色々と制限があると思うが、是非委員の皆様方にはアイデアをいただきたいと思っている。
溝口委員	科学館独自のYouTubeチャンネルはあるか。
佐藤係長	独自のものはありません。
溝口委員	科学館のホームページに動画を載せた場合、まず保護者が見て、それから子どもに伝えるというパターンになりがちだと思うが、YouTubeだと、子どもの方から探し当てて、親に話す流れになるのではないかと思った。

平川委員	YouTube なら、例えば、展示を作っている様子とか、職員が企画展で見てほしいところを熱く語るとか、裏話的なものも良いと思う。
浅倉委員	全然興味が無く何気なく見ていたら、最終的に科学と分かるような見せ方もあると思う。
中島委員長	YouTube 効果には、予想以上のものがある。Twitter と連動させることで、先ほどの平川委員からのお話しにもあったように、やわらかい感じになるのではないかな。また、大向委員のお話しにもあったが、リアルタイムでの講演会の実施についても、前向きに検討願いたい。
豊田委員	フォーラムの期間が、11月21日から29日となっているが、現在、小学校は土曜授業が多くなっており、参加できない児童もでてくると思う。予算の関係で期間を延ばせないのか、あえてこの期間なのか、お聞きしたい。
佐藤係長	フォーラムの前に、別の企画展「デジタルアート展」を行っていること、また予算の面ということもある。
木村委員	子どもたちが遠隔ロボットを操作して、JAXAや東京の未来科学館を見学できるようである。費用的に厳しい面はあると思うが、検討はできるか。
佐藤係長	今のところ計画はないが、調べてみたい。
竹居部長	予算には限りがあるため、企業とコラボして、お互いがWinWinの関係を築き、無料でできればと思う。委員の皆様には、是非その橋渡しをしていただきたい。
平川委員	フォーラムの実施については、教育の面からも賛成である。 インターステラテクノロジズ株式会社の社長は、埼玉県の越谷出身で県立浦和高校卒業である。若田宇宙飛行士の他にも、色々に関わりのある方がいる。 また、毎年、7月下旬ごろに、秋ヶ瀬公園でモデルロケットの打ち上げの大会があったりするので、PRしてもよいと思う。
竹居部長	ただ今の平川委員のお話を受けてであるが、与野郷土資料館が与野本町小学校に開設された。そこに、稲垣田龍という江戸時代の天文学者の作品が展示されているが、そういったことがトータル的に発信できていないという課題がある。
富田委員	昨年度、平川委員を講師に迎え、高校生を対象に「ロケット教室」を実施したが、小・中学生向けも可能か。
平川委員	問題ない。元々小・中学生向けに作られたキットである。むしろ高校生にとっては、簡単かもしれない。

長嶋委員	<p>教育委員会だけでは限界があると思うので、企業と連携することは良い。</p> <p>また、小・中学生の時の感動は、その後も続くと思う。中学3年生の学習利用も是非実施してほしい。</p>
竹居部長	<p>中学3年生は卒業してしまうため、プラネタリウムの招待券を渡して、いつでも来館できるようにする予定である。</p>
平川委員	<p>さきほどの「ロケット教室」だが、場所が中々無く、小学校の校庭でできるとありがたい。教育用のロケットであり、安全で、音も煙もそれほど出ない。</p>
竹居部長	<p>今後、「ロケット教室」がルーティン化して、大会ができるようになると思う。</p>

7 閉会